

大阪府における臓器移植対策について



公益財団法人大阪腎臓バンク理事
島田 秀和

我が国の移植医療を取り巻く現状を見ますと、令和7年12月末時点の移植希望者数は、全国で心臓798人、肺640人、肝臓599人、腎臓15,043人、膵臓135人、小腸9人、合計17,224人と、多くの方が移植を待ちながら日々の治療が続けられています。対して、臓器提供数は近年増加傾向にあるものの、昨年1年間の臓器移植件数は計636件と、移植を希望される方のうち、実際に移植を受けることができる方はごく一部に留まっています。また、令和7年度の世論調査によると、全国における臓器提供に関心がある者の割合が61.7%である一方で、臓器提供の意思表示率は19.9%と、依然として低い水準となっています。

大阪府実施の街頭アンケートでも、運転免許証等で意思表示ができることを知っている者の割合は約8割を占めていますが、実際の意思表示率は全国と同様に低い水準に留まっており、臓器移植に関する正しい知識が日常の中で共有される環境づくりや、意思表示に結びつけるための取組が求められているところです。

こうした状況を踏まえ、大阪府では、第8次医療計画において、臓器移植対策を重要な施策の一つとして位置づけ、「臓器移植に関する知識の普及」「臓器移植医療体制の充実」「院内移植コーディネーターの届出数増加と資質向上」の3つの目標を掲げ、施策を推進しています。

まず、「臓器移植に関する知識の普及」について、大阪府では、毎年10月の臓器移植普及推進月間を中心に臓器移植に関する普及啓発活動を行っています。例年、大阪腎臓バンクをはじめとする多くの関係機関と連携し、街頭キャンペーンや地域のイベントで普及啓発グッズや意思表示カードの配布を実施しています。

加えて、令和7年度は、大阪市中央公会堂において、厚生労働省等との共催により「第26回臓器移植推進国民大会」を開催し、「いのちのバトン、想いをつなぐ ～臓器移植医療をもっとあたりまえに～」をテーマに、移植医や

ドナー家族、移植者の方による講演などにより、臓器移植に対する理解の一層の促進を図りました。当日は、関係者も含め200人を超える方にご来場いただいたほか、WEB配信でも多くの方にご視聴いただき、幅広い層に理解を深めていただく機会となりました。

また、太陽の塔など府内4つの施設を移植医療のシンボルカラーであるグリーンにライトアップする「大阪グリーンライトアッププロジェクト2025」も実施しました。

このような取組を通じて、府民の方々が臓器移植について考える機会を広げています。

次に、「臓器移植医療体制の充実」について、大阪府では、臓器提供事例が発生した際の対応等を担う大阪府臓器移植コーディネーターを配置しています。近年、臓器提供数が増加傾向にある中、同コーディネーターが提供事例に関与する日数が増加し、同一日に複数の事例への対応が必要となることも多くなっており、このような状況を受け、令和8年度から、同コーディネーターの増員を予定しております。

また、同コーディネーターについては、定期的な巡回を通じた医療機関に対する普及啓発や院内体制整備への働きかけも行っています。府内の院内移植コーディネーターの設置医療機関数は令和8年4月末現在、34施設に上り、引き続き、臓器移植医療体制のさらなる充実を目指していきます。

最後に、「院内移植コーディネーターの届出数増加と資質向上」についてです。令和8年4月末現在、府内の院内移植コーディネーター数は延べ167人と、第7次医療計画終了時である令和6年3月末時点と比較して12人増となっております。院内移植コーディネーターの届出を検討している方に対し臓器移植に関する知識を習得できる機会を提供するとともに、すでに同コーディネーター業務に従事している方が必要な知識を継続的に更新できるよう、大阪府臓器移植コーディネーター等と協力し、研修会を年3回開催（令和7年度は、うち1回を国民大会に併せて、拡大版研修として開催）しています。こうした機会を通じて、院内移植コーディネーターの人員の拡充と、さらなる資質向上を図っていきます。

今後とも、関係機関の皆様と力を合わせながら、移植医療の推進に向けて取り組んでまいりますので、皆様の温かいご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

(大阪府健康医療部保健医療室地域保健課長)

令和8年度事業計画及び収支予算

令和8年3月4日に理事会が開催され、令和8年度の事業計画及び収支予算が決まりました。

【事業計画】

1. 腎不全実態調査助成事業

血液透析医療や移植医療の実態把握のため、大阪透析研究会、腎移植施設連絡会及び献腎移植事例検討会に対して助成を行います。

2. 研究助成・褒賞・教育研修助成事業

- (1) 腎不全をはじめ腎・尿路疾患の予防と治療に関する研究調査などを行っている若手研究者、コメディカル、患者団体などにその研究費を助成します。様々な研究領域・職種からの応募を促すため、各分野ごとに審査するなどの取り組みを行い研究助成の幅を広げていただきます。助成金の額は腎疾患研究助成審査委員会の選考により決定することになりますが、今年度は総予算500万円となりました。
- (2) 府下の透析施設で行われる透析医療水準の向上と標準化に資する研究活動を対象に、大阪透析研究会（年2回開催）で選考された優秀論文に対し褒賞金を贈呈します。
- (3) 腎臓移植の推進に向け臓器提供に関する教育研修に参加する大阪府院内移植コーディネーター設置届出施設に対し医療従事者の研修会等の参加費を助成します。

3. 学会等共催事業

腎・尿路疾患の予防と治療に関する学術研究の推進に寄与するため、学会等共催審査委員会において承認された学会・研究会との共催事業を実施します。

(1) 学会

- ① 第14回日独泌尿器科会議
主宰：山本 新吾（兵庫医科大学）
令和8年5月24～30日 於：兵庫・京都・奈良
- ② The 10th congress of Asian Pacific Society of Dialysis Access (APSDA2026)
主宰：長沼 俊秀（大阪公立大学大学院）
令和8年10月2～4日 於：大阪国際会議場
- ③ 第30回日本透析アクセス医学会学術集会・総会
主宰：中倉 兵庫（北辰会 天の川病院）
令和8年10月3～4日 於：大阪国際会議場
- ④ 第60回日本臨床腎移植学会
主宰：内田 潤次（大阪公立大学大学院）
令和9年1月28～30日 於：大阪国際会議場
- ⑤ 第105回大阪透析研究会
主宰 長門谷 克之（大阪ろうさい病院）
R8.9.13 於：大阪国際会議場
- ⑥ 第38回 日本サイコネフロロジー学会学術集会・総会
主宰 米田 龍生（奈良県立医科大学）
R9.7.24～25 於：奈良春日野国際フォーラム

(2) 研究会

- 大阪腹膜透析研究会
会長 林 晃正（大阪急性期・総合医療C）
腎疾患フロンティア研究会
代表世話人 角田 洋一（大阪大学大学院）

慢性腎臓病（CKD）アウトカム研究会

代表幹事 倉賀野 隆裕（兵庫医科大学）

4. 普及啓発事業

腎不全対策、特に献腎移植の推進には府民の理解と協力が不可欠なことから、令和8年度においても大阪府や患者団体とも連携しながら様々な普及啓発活動を推進します。

(1) キャンペーン活動及び啓発資料作成・配布

臓器移植普及推進月間（10月）を中心に府下各地のイベント会場で大阪府、大阪市、堺市、患者団体、ボランティア等と共同で献腎移植推進の普及啓発キャンペーンを実施します。

(2) 意思表示カードの作成・配布

ガンバ大阪の協力を得てガンバ大阪のキャラクターデザインの入った意思表示カードを2万枚作成し府下における公共、集客施設や街頭キャンペーン及び講演会開催時などで配布します。

(3) 患者団体が行う学習会や啓発活動の助成等

NPO 法人大阪腎臓病患者協議会などの患者団体が行う、透析患者・移植者のQOL向上のための学習会の開催や献腎移植推進キャンペーン等の啓発活動を助成します。

(4) 患者団体との共催事業

NPO 法人大阪腎臓病患者協議会の学習会活動、NPO 法人日本移植者協議会の移植情報センター事業、NPO 法人日本移植者スポーツ協会の全国移植者スポーツ大会事業を共催し、寄付募金活動等を行います。

(5) 勉強会の開催及び機関誌発行等

献腎移植の推進に関する勉強会の開催、機関誌 OKF ニュース（年2回程度）の発行・賛助会員等への提供、ホームページの更新を行います。

5. 組織適合検査事業

献腎移植希望者の組織適合検査（HLA 検査、抗体クロスマッチ検査）に要する費用の一部を助成します。令和8年度はHLA 検査90件、抗体クロスマッチ検査10件を予定しています。

6. 大阪府臓器移植コーディネーター事業

臓器移植を推進するため、大阪府の委託を受け大阪府臓器移植コーディネーターを1名（当バンク常勤職員）配置していましたが、令和8年度は献腎移植事例の増加を踏まえ臓器移植コーディネーター1名を増員しコーディネーター2名体制で業務を執行する予定です。府民への普及啓発及び移植施設や提供病院との情報交換などを行い、ドナー発生時には、（公社）日本臓器移植ネットワーク等と連絡を取り、インフォームドコンセント、移植施設の連絡調整、検体や臓器の搬送、遺族対応等を行っています。また、提供病院用のパンフレット配布など臓器提供可能医療機関への支援や研修会の実施など、臓器提供体制の強化に努めています。

7. 献腎移植推進事業

臓器提供の可能性のある患者情報（ドナー情報）の提供があった病院、情報提供実績、献腎移植実績に応じて助成金の支給を行うものです。

令和6年度からの新規事業ですが、令和8年度も継続実施することになりました。

【収支予算】

令和8年度は、令和6年度から新規事業として行った献腎移植推進事業を継続するとともに、HLA 検査の患者負担金助成の増額措置も継続することとしました。

また、大阪府の委託を受け、臓器移植コーディネーターを1名増員することとしており、所要の予算を計上しています。

令和8年度（第17期）収支予算書

自：令和8年4月1日 至：令和9年3月31日

科目	予算額
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
1. 基本財産運用益	1,071,000
2. 運用財産運用益	10,181,000
3. 受取会費	13,680,000
4. 事業収益	10,280,000
受取寄付金（学会等共催）	10,180,000
受取寄付金（一般）	100,000
5. 受取学会等共催事務費	509,000
6. 受取補助金	860,000
7. 受取助成金	450,000
8. 受取委託料	12,922,000
9. 受取負担金	2,800,000
10. 受取利息	20,000
11. 雑収益	1,000
経常収益計	52,774,000
(2) 経常費用	
事業費	41,348,000
1. 腎不全実態調査助成	600,000
2. 研究助成費	5,000,000
3. 褒賞費	400,000
4. 教育研修助成費	500,000
5. 学会等共催	10,180,000
6. 学会等共催審査委員会謝金	160,000
7. 普及および啓発	3,000,000
8. 組織適合検査事業	5,060,000
9. 大阪府臓器移植コーディネーター	14,848,000
10. 献腎移植推進事業	1,600,000
管理費	14,152,000
減価償却費	244,000
経常費用計	55,744,000
当期増減額	▲ 2,970,000

令和8年度腎疾患研究助成事業
審査結果について

令和8年度の腎疾患研究助成事業については、25件の応募があり18件が助成対象案件として採択されました。内訳につきましては、基礎分野9件、臨床分野6件、コメディカル分野3件となりました。なお、助成対象案件の詳細は以下の通りです。

なお、令和9年度からは幅広い施設（教室・講座）から応募を受け付け、助成施設（教室・講座）も増やしたいという趣旨から、来年度以降は推薦人の推薦は基礎、臨床、コメディカルの各分野につき1件に限定させていただきます。（同一推薦者は3分野で1件ずつ推薦可能であるが、同一分野での推薦は1件のみとする。）なお、同一の教室・講座からの同一分野での応募は推薦人が異なれば応募可能ですが、助成金の受け取りは同一の教室・講座1件に限定させていただきます。

令和8年度腎疾患研究助成採択結果一覧

No.	氏名(所属)	分野	研究題目
1	村山 正承 (関西医科大学 モデル動物部門)	基礎	腎線維化に起因する尿毒症症状におけるCTRP6の役割の解明と治療応用

2	前之園 良一 (大阪医科薬科大学 泌尿器科学教室)	基礎	腎細胞癌モデルにおけるexogenous CXCL13が腫瘍免疫応答へ与える影響の検証と腫瘍免疫療法応用への模索
3	本間 拓二郎 (大阪公立大学 分子病態薬理学教室)	基礎	腎障害初期における死細胞除去の遅延が炎症遷延を引き起こし、AKIから慢性腎不全への進行を規定とするとの仮説に基づき、engineered マクロファージ導入によるエフェロサイトシスの促進が病態進行を抑制するかどうかを検証する。
4	玉井 那実 (大阪大学 腎臓内科学)	基礎	RAB11 による糸球体上皮細胞(Podocyte) の足突起構造維持機構の解明
5	保田 真宏 (関西医科大学 小児科学講座)	基礎	ヒトiPS細胞を用いた特発性ネフローゼ症候群の病態解明と新規治療薬の開発
6	徳地 真帆 (大阪大学 腎臓内科学)	基礎	ARHGEF7に着目したポドサイトパッチー治療の基盤構築
7	好岡 大輔 (大阪大学 統合生理学)	基礎	腎疾患関連変異によるKvチャネル機能・局在異常の包括的解析と分子病態の解明
8	小野 克宏 (大阪公立大学 代謝内分分泌病態内科学)	基礎	Calciprotein Particles (CPP) によるCKD関連サルコペニアの分子機序解明
9	西出 峻治 (大阪公立大学 泌尿器病態学)	基礎	腎線維化誘導因子阻害による腎線維化制御療法の開発
10	村島 美穂 (近畿大学 腎臓内科)	臨床	後ろ向きコホート研究とstep-wedged cluster randomized trialを統合した腎障害予防研究
11	森 大輔 (大阪ろうさい病院 腎臓内科)	臨床	慢性腎臓病患者におけるフレイルが治療介入効果および腎機能予後に与える影響の検討：Real world dataを用いた解析
12	田中 亮 (大阪急性期・総合医療センター 泌尿器科)	臨床	献腎移植におけるドナーHLAタイピング予測モデルの構築と拒絶反応リスク層別化への応用
13	村津 淳 (りんくう総合医療センター 腎臓内科)	臨床	人工知能を用いたBMI層別腎機能低下早期予測モデルの構築－大阪府内5年縦断多施設共同研究－
14	高嶋 亮平 (大阪公立大学 代謝内分分泌病態内科学)	臨床	ODCSコホートを用いた血液透析患者における血清カルプロテクチンの予後層別化指標としての臨床的意義の解明
15	松田 翔悟 (大阪医科薬科大学 リウマチ膠原病内科)	臨床	CD163陽性マクロファージに着目した顕微鏡的多発血管炎合併急速進行性糸球体腎炎の腎線維化進展および末期腎不全移行機序の解明
16	村内 千代 (関西医科大学 慢性疾患看護学領域)	コメ	透析予防外来におけるチーム医療の質の評価－患者のQOLおよび医療体験、医療費と臨床指標による包括的検討－
17	松井 統哉 (大阪公立大学医学部附属病院 薬剤師)	コメ	バンコマイシン (VCM) とタゾバクタム/ピペラシリン (TAZ/PIPC) の併用による急性腎障害に及ぼすウロモジュリン (UMOD) 動態の役割解明
18	田中 順也 (堺市立総合医療センター 看護局)	コメ	末期腎不全患者の人生の最終段階におけるACPの実践と多職種連携の実態－大阪府堺市における量的調査－

臓器移植コーディネーターの募集について

大阪腎臓バンクでは、臓器移植コーディネーターを募集しています。

臓器移植コーディネーターの主な仕事は、ドナーの方からご提供いただいた臓器が、移植を希望する方（レシピエント）に適切にわたるように調整し、いのちをつなぐことです。

臓器提供事例発生時には、公益社団法人日本臓器移植ネットワークの業務を支援し、臓器提供施設からの情報収集や臓器提供者の家族に対する臓器提供、移植に関する説明を行います。

時には症例が休日・夜間に及ぶこともあり、決して楽な仕事ではありませんが、誰もが経験する「看取り」の場に立ち会い、より良い最期を迎えていただくことが出来た時にやりがいを感じる事が出来る仕事です。

詳細につきましては**財団ホームページ** (www.okf.ecnet.jp/info/) のお知らせコーナーに募集要領を掲載していますのでご覧ください。興味のある方は財団事務局まで是非ともお問い合わせください。

※お問い合わせ先 Tel : [06-6377-3000](tel:06-6377-3000) Mail : okfj709@sirius.ocn.ne.jp

事務局だより

1. 税額控除適用法人の証明（継続更新）

当法人への寄付金（賛助会費を含む）については、税法上、各種の優遇措置があります。そのうち、個人からの寄付金に係る所得税に関し、この度、大阪府知事から税額控除適用法人の証明（継続更新）を受けました。有効期間は令和3年8月16日から令和8年8月15日までです。所得税に関する優遇措置には所得控除方式もありますが、一般的には今回認められた税額控除方式の方が減税効果は高くなります。

他の優遇措置として、個人からの場合は大阪市に在住の方は大阪市民税、大阪府民の方は個人府民税、相続税があり、寄付者が法人の場合は一般寄付金の損金算入限度額とは別に別枠の損金算入限度額が設けられています。

2. 支援型飲料自動販売機の設置について（お願い）

支援型飲料自動販売機設置事業は、自販機の設置者が指定する公益法人に売上金の一部を寄付するもので、飲料購入者の方も飲料の購入を通じて公益事業を支援する制度です。

新しく自販機を設置する場合や交換をお考えの際には是非とも導入いただきますようお願いします。ご検

討いただける場合は大阪腎臓バンク事務局までご一報いただきますようお願いいたします。

3. 令和8年度教育研修助成事業の申請について

大阪府に院内移植コーディネーター設置届出を行っている医療機関を対象に、臓器提供に関する教育研修への参加経費について助成を行っています。

※助成金の振込口座は申請者（施設）名義の口座に限定しますのでご注意ください。

4. 令和8年の理事会等日程

日時	会議名	備考
5月13日(水) 18:00	理事会	令和7年度決算案、事業報告案
5月29日(金) 18:00	定時評議員会	令和7年度決算承認、評議員改選
10月21日(水) 18:00	常任委員 常任理事会	令和9年度予算案について

令和8年5月29日
編集・発行

公益財団法人 大阪腎臓バンク

発行人 高原 史郎

事務局 大阪市北区鶴野町4-11-709

TEL (06)6377-3000

FAX (06)6377-3022

URL:<http://www.okf.ecnet.jp>